

県立図書館の縣人文庫

64回（昭和32年卒） 庄司英樹

県立図書館がリニューアルオープンして間もなく新型コロナウイルス感染防止で利用制限されていたが、8月から利用制限が緩和された。先日新装なった館内を見学した。

利用しやすくなり、縣人文庫も一室から解放され、書架の間に展示ケースを組み込み、周遊しながら展観できるようになっていた。一通り観て「あれっ？」と思った。日本画家で文化勲章受章者の福王子法林氏（米沢 1920～2012）同じく文化勲章受章者で小説家、文芸評論家の丸谷才一氏（鶴岡1925～2012）、小説家、劇作家で文化功労者の井上ひさし氏（川西町1934～2010）らが文庫には加わっていない。

リーフレット「縣人文庫」には「私たちの先人は、雪と峠とたたかい、今日の山形を築きました。そのことが実直、勤勉、思索型の県民性を作ったと言われています。こうした自然的・地理的条件を克服し、自らの努力によって中央の各界で活躍した多くの人材が、古里とのかかわりで何を考え、どのように生きて来たか、それぞれの人間形成の過程を学んでいただくため、平成2年7月に展示室が開設されました」とある。

図書館職員、県教委生涯教育学習振興課に質問した。その答えは昭和62年当時に展示対象者選定懇談会の委員8人からご意見を聞き縣人文庫の22名を選定した。丸谷さんらは当時ご存命だったし受賞もされていないので…。

歴史は日々動いており、縣人文庫に名を連ねてふさわしい先人が相次いでいる。新装を機に縣人文庫の意義を見直しては…。（2020年9月10日）